

ゆうこのおひさま通信

～だれもが笑顔でくらせるために～



群馬県議会議員 大林裕子



一般質問にて

霜寒の候、朝夕の寒さが身に染みる頃となりました。皆様お元気でしょうか。新型コロナウイルス感染は第8波に入り、インフルエンザとのダブル感染が懸念されています。感染予防には配慮しながら、皆さんが元気に前向きに過ごせるよう、私も取り組んでまいります。9月28日の一般質問では、テレビやインターネットで見て応援していただくとともに、励ましやご意見をいただきましてありがとうございました。今回の通信は一般質問の内容を中心にお伝えしたいと思います。これからも地元北群馬の皆さんのが笑顔のため、群馬県のために一心に頑張ってまいります。皆様の温かいご支援・ご協力、ご鞭撻をどうぞよろしくお願ひいたします。

令和4年第3回定例会（9月20日～10月31日）が開かれました。

一般会計補正予算が可決されるとともに、令和3年度の決算も審議されました。補正予算の主な内容は次の通りです。

- 価格高騰の影響を受ける酪農家等の農林業に対する経営支援や、光熱費・給食食材費高騰に対する保育・教育現場への支援等

約257億3000万円

- 「愛郷ぐんま全国割」実施経費や、マイナンバーカードの取得促進のための経費等

約112億6000万円 など

図書広報委員会県外調査 11/15・16



金沢市立海みらい図書館



文教警察常任委員会県外調査 7/20・21



青森県警
全方位カメラを搭載したパトカー配置について調査

青森県教育委員会
産婦人科医を配置した性教育の取り組みについて調査



子ども・障害者支援特委県外調査 9/6

NPO法人 SOS子どもの村JAPAN (福岡市にて)
里親への取り組み等について調査

9月28日 一般質問報告



今後のICT教育について知事が答弁

1 子育て支援について

- (1) 県内の産後ケア事業について
(生活こども部長)
- (2) 母乳バンクの活用について (病院局長)

2 社会的養護が必要とされる子どもへの支援について

- (1) 18歳成人や自立支援の年齢撤廃に伴う支援への諸問題について
(生活こども部長)
- (2) 里親委託の推進について
(生活こども部長)

3 みどりの食料システム戦略について

- (1) みどりの食料システム戦略と県の取り組みについて
(農政部長)
- (2) 有機農業の推進について
(農政部長)

4 県道前橋伊香保線バイパスについて

(県土整備部長)

5 県内の小中学校のICT教育について

- (1) 県内の小中学校におけるICT活用の状況と課題について
(教育長)
- (2) 課題解消に向けた県の取り組みについて(教育長)
- (3) 今後のICT教育への知事の思いについて(知事)

皆様の声を県政に！気軽に声をかけて下さい。

発行者：自由民主党 大林裕子

〒370-3607 北群馬郡吉岡町小倉甲91 TEL.0279-54-3745 FAX.0279-54-0593

公式HP

Facebook



UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

1 子育て支援について

[産後ケア事業について]

Q1 産後ケア事業の県内市町村における取り組み状況と利用状況は。

A1 県内すべての市町村で実施されているが、実施内容や周知の方法は様々。利用状況も違がある。

Q2 ケア事業を必要とする方が、より受けやすくなるよう、県として支援が必要では。

A2 市町村へ、ケア事業の重要性の認識を促すとともに、利用者にも十分知つてもらえるように周知の方法や提案を予定している。子育て家族のニーズをとらえ、ケアを充実し、広く利用できるよう市町村の取り組みを支援していく。

産後ケア事業とは…

出産後の母子に対して心身のケアや育児のサポートなどの支援を行うもの。実施主体は、市町村で努力義務となっている。同居家族の有無にかかわらずサービスが受けられる。具体的には、授乳指導や乳房のケア、心身を安定や回復のための宿泊やデイサービスなど。



要望

誰もが、安心してそして気持ちを楽に、赤ちゃんを産み育てられる環境を整えていくことが、これから社会を継続していくためにも大切であると思う。産後ケア事業が誰でも受けられるように取り組んでいただきたい。

[母乳バンクについて]

Q1 低体重出生児(1500g以下で生まれた赤ちゃん)にとって、母乳は免疫力を高め、治療と成長にはとても重要だが、中には母親の母乳が与えられない赤ちゃんもいる。周産期医療、NICUを持つ県立小児医療センターにおいて母乳バンクの活用は、有用な取り組みと考えるが。

A1 県内で生まれる極低体重出生児の約4割の赤ちゃんが、当院で入院治療を受けている。予後の改善のためを考え、本年8月に母乳バンクとの間で利用契約を行った。赤ちゃんの治療と成長に役立てたい。

母乳バンクとは…

母乳が出るお母さんから、余った母乳を寄付してもらい、適切な検査や保管・管理をして、必要とする乳児に提供する仕組み。

3 緑の食料システム戦略について

Q1 ウクライナ情勢などにより燃料や肥料・飼料・資材等が高騰している。県は農家支援対策をしているが、中長期的な観点からも輸入原料に過度に依存しない生産体制が必要ではないか。昨年5月に国が策定した「みどりの食料システム戦略」の概要と県の対応は?

A1 持続可能な食糧システムを構築するため、資材調達、生産・加工・流通・消費の各段階で、環境への負荷を減らそうという取り組み。市町村等と連携し、今年度中に、具体案を示した基本計画を作成するよう進めている。

Q2 農業従事者が減る中、有機農業へのかじ取りは大変なものがあるのでは。有機農業の技術や方法、省力化への技術開発等の農家支援、消費者への理解促進が必要ではないか。

A2 化学肥料や農薬に頼らない土づくりや、生産者が取り組みやすくなるよう、技術開発、周辺環境整備に取り組みたい。消費者の理解促進のために、有機農産物の商談会やイベントの開催、学校給食での利用促進を考えている。

みどりの食料システム戦略の目標値

2050年までに化学肥料の使用率を30%、化学農薬の使用率を50%減らす。有機農業を耕地面積全体の25%に拡大するなど。



4 県道前橋伊香保線バイパスについて

Q1 駒寄スマートインターチェンジ周辺の商業施設の相次ぐ出店や、人口増加による新たな交通需要(交通量)が発生している。それに対応するために、県道前橋伊香保線の宮東交差点から延伸する前橋伊香保線バイパスを整備し、道路ネットワークのさらなる強化が必要と考えるが。

A1 大型商業施設出店に伴う渋滞の発生等の状況をふまえ、実態把握に努めたい。また隣接する渋川市と道路網の在り方等の整理をしてもらった上で、バイパス整備について検討していきたい。



5 県内小中学校のICT教育について

Q1 全ての児童生徒にタブレット端末等が行き渡ってから1年半が経過した。現在の状況と課題、今後の取り組みについて伺いたい。

A1 子どもたちが自分の意見をまとめる、発表する、ネットワークを通して交換する等々、様々な場面で活用されている。今年のICT活用の全国調査では、本県は小中学校ともに、全国よりも7ポイント高くなっている。一方で、県内では地域差、意識の差があり、今後は様々な場を設定し、教育委員会や教員どうしが意見交換し、どの地域、学校においてもICTを活用したより良い授業が受けられるよう支援をしていきたい。

ICT教育とは…

パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育手法。

11/6 榛東村産業祭に参加



10/28 県道前橋伊香保線バイパスの延伸を要望



吉岡町長、渋川市長とともに知事、県議会議長を訪問



11/3 吉岡町 町民文化祭に参加



10/16 消防団秋季点検に参加



町の安全・安心のため日々活動して下さっている消防団の皆さんに感謝。

9/23 子育て支援イベント しんとうママフェスを訪問
物品販売や、ほめトレ講座など、雨にもかかわらず、賑やかに開催されました。